

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国歴史教育研究協議会

(代表者 高野 修一 会員数 約16,200人)
TEL 0422-51-4554

大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト(以下共通テストと略)が5年目を迎え、今年度から「歴史総合」と、「世界史探究」という2つで世界史分野が出題されることとなり、共通テスト問題作成方針が反映された問題が出題された。本稿では、「歴史総合」と「世界史探究」の具体的な分析と要望を述べていきたい。

1の「前文」では令和7年度の共通テスト『歴史総合、世界史探究』の追・再試験の全般的な概略について、2の「試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価」では問題の内容・程度・設問数・配点・形式などの科目別の意見や要望について、3の「総評・まとめ」では総括的な評価、4の「今後の共通テストへの要望」では全体的な要望について述べる。

1 前 文

『歴史総合、世界史探究』(追・再試験)では、問題作成方針にある「歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する」という視点が、実際の問題作成においてしっかりと反映されていた。

以下、今年度の「歴史総合」と「世界史探究」の共通テスト追・再試験問題について、限られた紙面の中ではあるが、今後の御検討の一助になることを期待して、本協議会の意見と評価を記す。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

今年度の共通テストは、新課程入試となって初めての実施であった。昨年度の「世界史B」の追・再試験は大問数は5問、小問数は33問、ページ数は30ページであったのに対し、今年度の『歴史総合、世界史探究』の追・再試験は大問数は変化なし、小問数は32問と前年と大きな変化はなかったが、ページ数は36ページに増加した。大問数と小問数及び配点は、第1問が小問数8で配点25点、第2問が小問数7で配点21点、第3問が小問数6で配点17点、第4問が小問数6で配点19点、第5問が小問数5で配点18点であった。また、第1問は「歴史総合」が出題され、「地理歴史・公民②」の『地理総合/歴史総合/公共』の第2問と共通の出題であった。

出題を正解の選択肢を基に判断し時代別に見ると、第1問の「歴史総合」については、「近代化と私たち」からは1問、「国際秩序の変化や大衆化と私たち」からは4問、「グローバル化と私たち」からは3問であった。第2問から第5問の「世界史探究」については、古代に関する出題が4問、中世に関する出題が2問、近世に関する出題が5問、近代に関する出題が10問、現代に関する出題が2問、複数にまたがる出題が1問であった。

地域別に見ると、第1問の「歴史総合」については、アジア(日本も含めた東アジア・内陸アジア・

南アジア・東南アジア・西アジア)アフリカに関する出題が6問、ヨーロッパ(西ヨーロッパ・東ヨーロッパ・ロシア)に関する出題が1問、複数にまたがる出題が1問であった。第2問から第5問の「世界史探究」については、アジア(日本も含めた東アジア・内陸アジア・南アジア・東南アジア・西アジア)アフリカに関する出題が9問、ヨーロッパ(西ヨーロッパ・東ヨーロッパ・ロシア)に関する出題が12問、複数にまたがる出題が3問であった。

出題形式で見ると、肢文の中から正文を選ぶものが9問(誤文を選ぶ出題はなかった)、複数事項の組合せを選ぶものが17問、地図に関するものが2問であり、年代の配列に関するものが4問であった。全ての大問で史料文、地図、表、文献や図版などの資料が提示されていた。その中でも特に、図版や史料・グラフなどの内容を読み取って解答する問題は17問であった。共通テスト問題作成方針にも明示されている、「どのように学ぶか」を踏まえた問題の場面設定としては、歴史総合や世界史探究の授業の場面を設定した会話や対話、発表の出題であった。これは、高等学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指した、学習の過程を意識した問題の場面設定であると考えられる。共通テスト問題作成方針を踏まえ、本試験の分析と同様の観点で問題を検討する。

第1問 「国際イベントとその影響」

A 「19世紀に開催された万国博覧会」をテーマに班内での議論の場面を基にした出題。

問1 空欄 **ア** は岩倉使節団が派遣された目的について標準的な知識を問うており、空欄 **イ** は19世紀の万国博覧会の位置付けについて会話文から読み取り、正しい組合せを選択させる標準的な問題である。

問2 当時の欧米人が持っていた優越感や人種差別意識の事例について、資料から読み取れることと、資料中の下線部①と同様の考えや背景があると推察される歴史的事実とについて、最も適当な組合せを選択させる問題。出題教科・科目の問題作成の方針における(2)地理歴史に明示されている、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題で、良問である。

B 「20世紀前半の日本における博覧会」をテーマとした会話文形式の出題。

問3 空欄 **ウ** に入る文を前後の会話文から判断し最も適当なものを選択させる標準的な知識を問う問題である。

問4 20世紀前半に起こった満洲での出来事についての年代整序問題で、標準的な知識を問う問題である。

問5 万国博覧会の延期をめぐる海外の反響に関する資料から読み取れる事柄や、その背景に関して正しい組合せを選択させる問題。出題教科・科目の問題作成の方針における(2)地理歴史に明示されている、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける出題であり、高校での学習内容を踏まえた標準的な知識を問う問題である。

C 「アジア競技大会と夏季オリンピック」をテーマに、参加国・地域数の推移と国際関係との関わりについて考察する問題。

問6 グラフから読み取れる変化とその要因について最も適当な組合せを選択させる問題で、出題教科・科目の問題作成の方針における(2)地理歴史に明示されている、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題である。

問7 空欄 **エ**・**オ** に入る文の組合せを選択させる問題。空欄 **エ** はアジア＝アフリカ会議(バンドン会議)について、空欄 **オ** はソ連のアフガニスタン侵攻の背景について、高校での学習内容を踏まえた標準的な知識を問う問題である。

問8 パネルに加える内容として最も適当なものを選択させる問題で、出題教科・科目の問題作成の方針における(2)地理歴史に明示されている、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける標準的な知識を問う問題である。

第2問 「国家の形成や発展の過程で生じる対立やその影響」

A 古代ローマについての授業の場면을基にした出題。

問1 カエサルの子孫について正文を選択させる問題で、標準的な知識を問う問題である。

問2 資料1～3に記された出来事についての年代整序問題である。出題教科・科目の問題作成の方針における(2)地理歴史に明示されている、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題であり、資料1と資料2は資料中にそれぞれカエサルとマリウスがあり判断できるが、資料3からティベリウス＝グラックスが殺害されたことについて判断することは厳しく、高等学校における学習活動や成果が評価されるべき共通テスト入試としては難易度が高く厳しかったと思われる。

B 百年戦争についての授業の場면을基にした出題。

問3 イングランドの主な領土及び勢力下にあった主な領域を示した図を並べ替える年代整序で、標準的な知識と空間的な把握を問う問題である。

問4 会話を参考にして百年戦争が終結したとされる都市とその根拠になると考えられる事象について正しい組合せを選択させる問題。出題教科・科目の問題作成の方針における(2)地理歴史に明示されている、仮説を立てて、資料に基づき根拠を示したり、検証したりする問題で、良問である。

問5 会話を参考にして生徒たちが作成したメモの正誤について判定する問題。出題教科・科目の問題作成の方針における(2)地理歴史に明示されている、用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、歴史的な見方・考え方を働かせながら、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、課題の解決を視野に入れて構想したりする問題で、良問である。

C インドの独立について生徒が作成したスライドを発表する場면을基にした出題。

問6 インドとパキスタンの分離・独立について、会話を参考にして空欄「イ」と「ウ」に入る語句の正しい組合せを選ぶ標準的な知識を問う問題である。

問7 生徒たちによるインドと他の国との分類と、その分類方法の根拠について述べた文の正しい組合せを選ぶ標準的な知識を問う問題である。

第3問 「世界史における女性の社会的地位」

A 魔女裁判に関する資料とレポートを基にした出題。

問1 魔女に関する情報が広く流布した背景についての正文を選択させる問題で、標準的な知識を問う問題である。

問2 レポートを参考にして資料1・2から読み取れる事柄の正しい組合せを選択させる問題である。(2)地理歴史に明示されている、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題である。

B 17世紀の東南アジアにおける女性君主について、生徒が調査して作成したメモを基にした出題。

問3 アチェ王国の位置について基本的な知識と空間的な把握を問う問題である。

問4 アチェ王国で4代続いて女王が続いた理由について、(2)地理歴史に明示されている、

仮説を立てて、資料に基づき根拠を示したり、検証したりする問題である。

C 「女性の権利のための大会」の記念プレートに関するレポートを基にした出題。

問5 図とメモから読み取れる事柄と、プレートが設置された時期のアメリカ合衆国について述べた2つの文について正しい組合せを選択させる標準的な知識を問う問題で、歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程が重視された出題であり、高校での学習を踏まえたうえで出題の意図に合致した良問である。

問6 19世紀のアメリカ合衆国での女性の活動について、標準的な知識を問う問題である。

第4問 「世界史上の様々な交易・貿易とその影響」

A 紀元前2～紀元前1世紀のアジアにおける東西交易についての授業の場面を基にした出題。

問1 前漢の武帝についての正文を選択させる問題で、標準的な知識を問う問題である。

問2 張騫が前漢・武帝に勧めた図中のルートと、その理由について正しいものを選択させる問題。(2)地理歴史に明示されている、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題で良問である。

B 16～18世紀のアフリカの奴隷貿易について授業の場面を基にした出題。

問3 空欄「ア」に入る文として最も適当なものを、表や前後の会話文から判断し選択させる問題。(2)地理歴史に明示されている、歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察、構想する過程が重視された問題で良問である。

問4 空欄「イ」・「ウ」に入る文の正しい組合せを選択させる問題。(2)地理歴史に明示されている、歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察、構想する過程が重視された問題で良問である。

C ロシア帝国と清朝との貿易に関するグラフとメモを基にした出題。

問5 文Ⅰ・Ⅱとイリ条約が締結された時期に関する年代整序で、標準的な知識を問う問題である。

問6 グラフから読み取れる事柄と、ロシア帝国や清朝のそれぞれの勢力範囲に関わる事象について正しい組合せを選択させる標準的な知識を問う問題である。

第5問 「人々が直面した困難や危機についての班別学習」

問1 16～17世紀にユーラシア西部で気候が寒冷化したことによる、社会や生活に及ぼした影響について、絵画と資料を基に生徒がまとめたパネルの空欄「ア」に入る語句と、空欄「イ」に入る文との正しい組合せを選択させる問題である。空欄「ア」はブリュッゲルに関する標準的な知識を問う問題で、空欄「イ」は(2)地理歴史に明示されている、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題である。

問2 17世紀の清朝の貿易制限がもたらした困難に関する資料とメモを基にした出題。空欄「ウ」について述べた文と、空欄「エ」に入る語句の組合せについて最も適当なものを選択させる問題。(2)地理歴史に明示されている、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付けた良問である。

問3 ロシア帝国支配下のポーランドにおける蜂起についてまとめたパネルを基にした出題。空欄「オ」に入る人物の名と空欄「カ」に入る語句との正しい組合せを選択させる問題で、(2)地理歴史に明示されている、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題である。

問4 第二次世界大戦後のフランスで生じた困難について生徒同士の会話を基にした出題。

空欄 **キ** に入る語句と、会話文から読み取れる事柄の最も適当なものの組合せを選択させる問題。(2)地理歴史に明示されている、歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察、構想する過程が重視された問題である。

問5 「人々が直面した困難や危機」に関する新たな資料(アメリカ独立宣言)を基にした出題。各班の取り上げた事例との類似点について述べた文として最も適当なものを選択させる問題で、(2)地理歴史に明示されている、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題で良問である。

3 総評・まとめ

今年度から初めて『歴史総合、世界史探究』として出題され、多様な資料、図版、図表、データ、場面設定などを組み合わせた出題方式が従前どおり継続された。今後もこのような出題が継続されることを願う。一方で、会話文や文章資料の分量が多いことや、近代・現代に関する出題がやや多く、時代の偏りが見受けられる点を懸念として挙げる。また、受験者の高等学校における学習活動や成果が評価されるべき共通テストにおいては、思考力・判断力・表現力等を測る設問も当然重要であるものの、分量の多さゆえ受験者が時間内に解き終えることが難しかったと考えられる。次年度以降は、資料や問題文の分量の多さに配慮するとともに、時代や地域のバランスを意識した問題作成を強く望む。最後に、問題作成に御尽力なされた方々に、感謝申し上げたい。